

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	さびごろ : 文苑
Author(s)	夕闇
Citation	龍南會雜誌, 110: 38-39
Issue date	1905-03-10
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/5808">http://hdl.handle.net/2298/5808</a>
Right	

つづら籠

蓮北

膨りつけし文字も見わかず野の末にみ<sup>たま</sup>靈さびたる石や誰が墓  
うちよる波よかすかにまぎれてはいみじくひびく糸のひびきか  
流れゆく月の光に櫓をこめて吹くや船子の笛の音さゆる  
夢遠き若草の野に朝立ちてうれひをこめし笛ふきて見む

さびこころ

夕闇

ふる鏡ふりゆくまゝに淋び心窓のいてふの風さびこころ  
いてふ葉のひとつゝに歌のせてふれては共に鳴らむの心  
無の秋を森の夕日に歌なげてさびの息して命もどめむ  
樂の座に立ちたる君がまなざしや我世どこしへ消れても行かむ  
近松が墓にわちたる松の葉をひびきありやと友にわくりぬ  
朝のかげ先づ森の葉にたぶよふや夢よりかける神の白鳩

○浦島の子がこころを

まばろしのかげを追ひては海に入り七世<sup>ななよ</sup>の孫に夢をとき得し

○從弟聖民よりの頃のうたに

わか柳の糸のみだれの水に入りて星かげくたく宵やみの色

## 俳句

梅

紫 溟 吟 社

梅散るや山寺午なり盤の音

越 吳 坊

紅梅に三味の音洩るゝ小家哉

翠 琴

梅園の日影寂しき夕哉

龍 翠

二位の君の銀婚式や梅薫る

紫 郎

藪陰の白梅香る藁の家

龍 翠

曉や梅先づ白む山の寺

翠 琴

谷の坊梅の香寒う暮にけり

紫 郎

白梅や彌宜が小家の寂しかり

龍 翠

水ぬるむ

椽端に絹張る水のぬるみ哉

紫 郎

妓を拉し渡る人ありぬるむ川

翠 琴

鉄漿壺につぎたす水のぬるみ哉

紫 郎

ぬるむ田に足ひたし見る京女

翠 琴

ぬるむ水金魚僅に動きけり

紫 郎

洗ひたる芹の雫やぬるむ川

龍 翠

## 春の草

馬眠る蹄の側や春の草

龍 翠

春の草木馬の足の白き哉

越 吳 坊

若草や小山羊に捨てたる紙輕し

全

わか草に小雨降るなり稻荷道

翠 琴

春の草葛粉を洒らす水淺し

越 吳 坊

春草や三千の馬野に遊ぶ

紫 郎

若草や埒をぬけ出し羊の子

紫 郎